

# 府民の森くろんど園地探鳥会 (毎月第4土曜日両園地通算第284回)

令和6(2024)年12月28日(土)9:30~14:30頃 日本野鳥の会大阪支部

友田武・神戸徹・近藤輝男・沖光二・平軍二 (090-6901-1425)

今日のくろんど園地探鳥会では観察できませんが、友田氏より「最近交野市で増えている」として紹介されたこと、先月探鳥会で天野川にオオバンと思われる鳥がいたこともあり、今月の鳥をオオバンとしました。

## I 交野の鳥シリーズ(131)オオバン

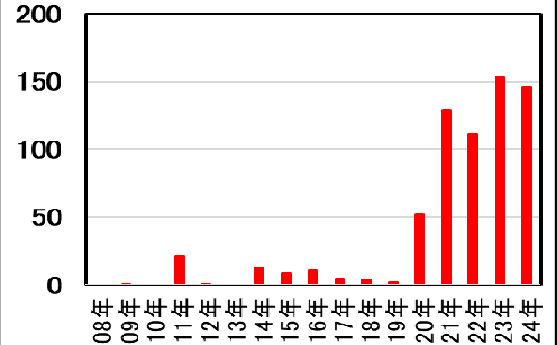
友田武氏は2008年より、交野野鳥の会会員による交野市内での野鳥の観察状況、日々の記録を集約されている。

そのデータから見たオオバンの年間観察日数が、2020年以降急増していることを報告された。 →

友田氏のデータでは、2019年まで年間観察日数が数日だったオオバンが、2020年以降急増、冬鳥として10月~5月の間定住して、年に150日前後観察されている。

観察日数なので160日以上は厳しいと思われ、オオバンの環境に大きな変化が無ければ、この状態が継続すると思われる。

(日/年) オオバン観察日数



### I-②11月探鳥会のオオバンと思われる個体

11月探鳥会で渡邊信義氏が写され、バンの若鳥?とされている写真を報告された。平はこの鳥を現地で見ていなかったが、渡邊氏の写真では

「額板以外は全身がほぼ黒色で、脇に白斑が見えない」ことから、バンよりもオオバンの可能性が高いと思われた。これまでバンの若鳥として「グリーンがかった体色で脇に白斑がある」個体は何回も見ていたが、全身がほぼ黒色で脇に白斑の無いバンを見たことがありませんでした。

そこで、大阪支部HPへの11月探鳥会報告には、オオバンとして報告させていただきました。

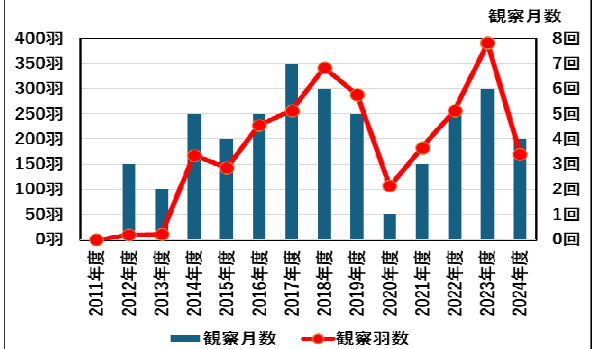
### I-③枚方淀川探鳥会のオオバン個体数 →

上記友田氏のようにオオバンに定量的なデータはないが、枚方淀川探鳥会(淀川本流)の観察個体数をまとめてみた。

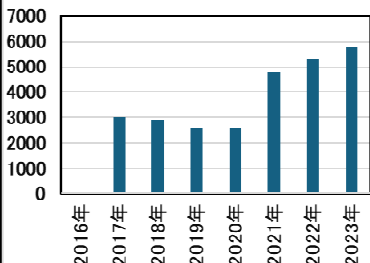
その結果、2012年から徐々に増えているものの、2020年以降はコロナの影響で探鳥会をお休みにしていることから、交野市と比較できないとわかった。ただ、オオバンが増え始めた時期が、淀川では2012年からで、交野市の2020年より早いことがわかる。

冬鳥として渡来するオオバンは当初広い水面に生息していたが、だんだん数が増え、交野市のように広い水面の少ない所でも生息し始めたと思われる。

オオバン観察実績(枚方淀川探鳥会)



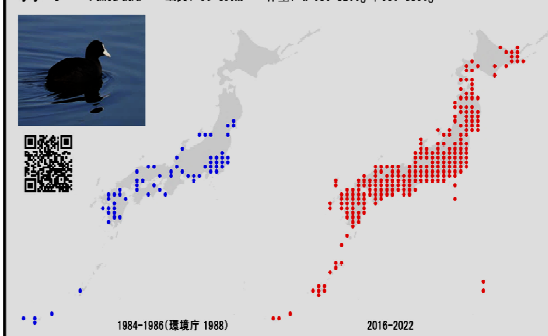
大阪府オオバン個体数 (カモ調査時)



### ← I-④大阪府ガンカモ調査時(個体数)

2017年より調査開始。年々増加傾向がみられている。

オオバン *Fulica atra* 全長: 36-45cm 体重: ♂610-1200g ♀610-1150g



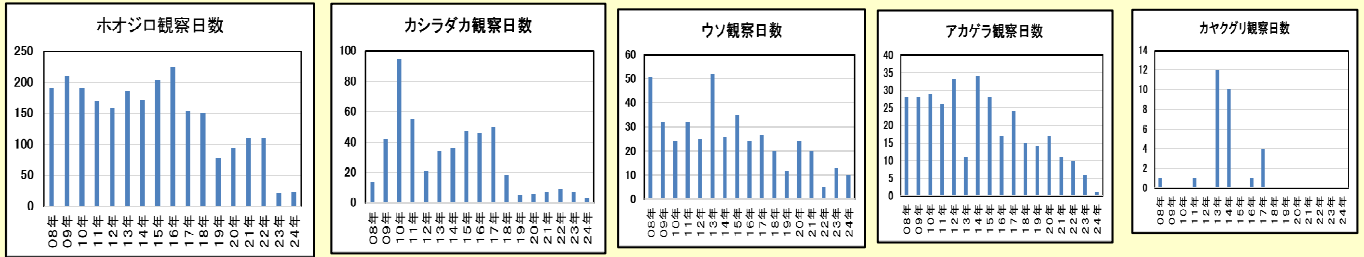
### ← I-⑤日本での越冬状況

1980年代に比較し、2010年代は大幅に拡大した。本州南部で幅広く、北海道東部でも記録された。

## II 最近交野市での観察が増加・減少している鳥

上記の通り、友田氏は交野野鳥の会会員による交野市内での野鳥の観察状況を集約されているが、最近、オオバンを含めた7種の鳥について、交野市での観察日数の増減の変化が大きいこと報告されている。

増加している鳥はオオバン・イソヒヨドリ、減少が著しく交野市で観察しにくくなっている鳥として、ホオジロ・カシラダカ・ウソ・アカゲラ、そしてカヤクグリを紹介されている。



その内、増加しているイソヒヨドリについて、平の経験、そして全国の状況を紹介する。

### II-② イソヒヨドリ

平が初めてイソヒヨドリを見たのは35年ほど前、南港野鳥園の近くの海岸の石積の上、文字通り「磯ヒヨドリ」でした。

その10年ほど後、河内長野市でツバメの巣を調査しておられた福岡賢造さんが、河内長野ではツバメの巣がイソヒヨドリに狙われて、ツバメが激減したと言われていました。その頃私の地元吹田のツバメはカラスにやられて激減していたので、河内長野市の状況を、不思議だなと思って聞いていました。

更に10年ほどして、私の地元吹田市のマンションにイソヒヨドリが見られるようになり、磯の鳥ではなく、マンションの鳥になっています。

吹田市ではツバメの巣が30年前に比べ1/3以下に激減していますので、ツバメの巣がイソヒヨドリに攻撃されることは見る事ができません。

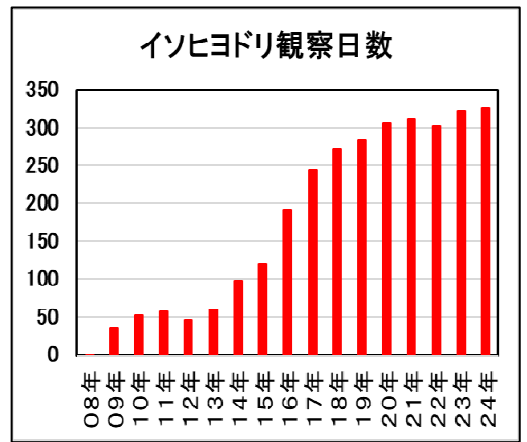
また、万博公園内で普通にみられるようになったのはここ1~2年なので、林の鳥でないことははっきりしています。

参考までに、ホオジロやアカゲラと同じ全国データを添付します。

イソヒヨドリが交野市だけでなく、全国で「磯の鳥」→「住宅地の鳥」に変化したらしく、繁殖状況も下記の通り、冬鳥としての越冬状況も増えています。

友田さんの交野市データは信頼性が高いです。

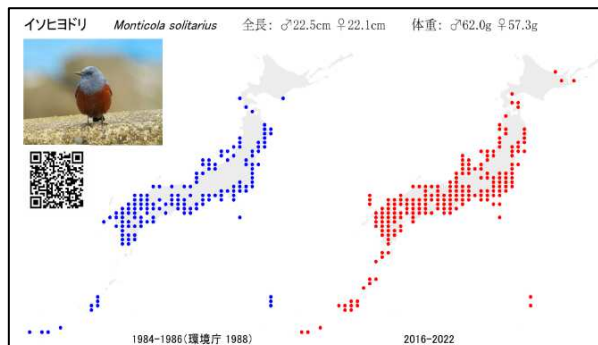
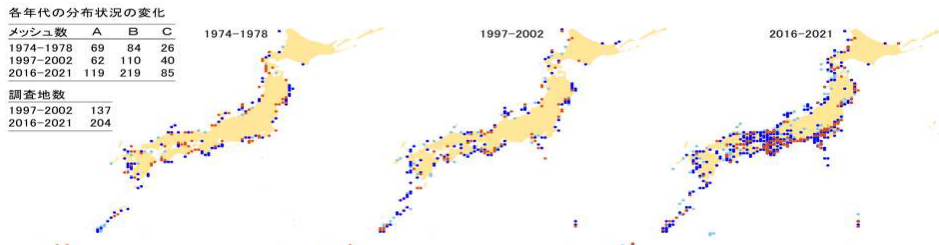
(渡邊信義氏→)



主に海岸に生息していたが、近年は内陸部への進出が著しい。都市部では高層の建物草地など開けた環境に隣接している場所に生息している。

#### ①全国鳥類分布調査図

イソヒヨドリ 分類: スズメ目ヒタキ科 Blue Rock Thrush *Monticola solitarius*  
 全長: ♂21.5-23.2cm ♀21.2-22.7cm 翼長: ♂115-130mm ♀111-121mm 尾長: ♂29-34mm ♀29-32mm 体重: ♂57-66g ♀51-57g  
 環境省レッドリスト: —



#### ②全国越冬分布調査図

上記繁殖分布の拡大で、関東以西では、内陸部での記録数が増えており、現在も分布を広げていると思われる。

### Ⅲ 先月 11月私市植物園～天野川（←ほしだ園地）探鳥会結果

11月23日は「ほしだ園地探鳥会」でしたが、当日交野市主催の「**交野大好きウォークラリー**」がほしだ園地で開催され、ウォークラリー参加者に対し「京阪私市駅～ほしだ園地」間を歩いて参加するよう呼びかけられていました。ほしだ園地内だけでなく行き帰りのハイキング道もウォークラリー参加者と同じ道を歩くこととなり、ゆっくり安全に鳥を見ることができないと思われるため、**探鳥会の行き先は「ほしだ園地」ではなく「大阪公立大私市植物園～天野川（終点京阪交野市駅）」に変更**しました。

植物園内のメタセコイアで「最初の導入木」と表示されている木がある。私市植物園園長をされた三木茂博士が、80万年以前の地層(大阪層群)にあった木の実・木の葉などの化石から「メタセコイア」と命名された植物で、その後中国に現存していたことがわかり、アメリカ経由で日本に入ってきた100株のうちの1株が、私市植物園にも植栽されていることを紹介した。植物園内では冬鳥のアオジ・シロハラ、エナガ・メジロなどが出たものの鳥が少なく午前中で終へ、午後からは天野川を下流に京阪交野市駅まで歩いた。天野川では水鳥、カモはカルガモ・コガモ、サギはコサギ・アオサギ、クイナはバン・オオバン、そしてセキレイがビンズイを入れて4種などが出たことで、トータル32種を確認した。

なお、現地できちばしが黄色っぽく首がやや長く見え「**カンムリカイツブリの幼鳥**」でないかと話題になったが、写真(下段左)で確認、カイツブリとなった。



ジョウビタキ



カワセミ



イワツバメ(巣)・平



ハクセキレイ



セグロセキレイ



キセキレイ



カイツブリ(首長)



コガモ(群)



コサギ

写真 渡邊信義氏 (イワツバメの巣を除く)

### Ⅳ 次回探鳥会 2025/1/25 ほしだ園地探鳥会 9:30私市駅前

今月と同じように、大阪支部HPのホームズ様式からお申し込みください。

ほしだ園地・くろんど園地探鳥会は2000年1月にスタートしましたので、次回から26年目に入ります。**ほしだ園地では、11月よりハヤブサが定住していますので、2025年は園地内での繁殖・子育てを期待したいと思っています。**

